鹿 病 防 第 １ ４ 号
平成26年９月５日

各 関 係 機 関 の 長　殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成26年度技術情報第７号(イチゴの炭疽病）について（送付）

イチゴの炭疽病について情報をとりまとめましたので送付します。

親株での炭疽病菌の潜在感染は平年並みに推移していましたが，７，８月に降雨が多く，子苗での潜在感染が多くなっています。防除対策を徹底し，健全苗の確保に努めましょう。

１　**農作物名**　　イチゴ（育苗期）

２　**病害虫名**　　炭疽病

３　**潜在感染株調査（８月中旬採集）**

（１）発生地域　　県本土

（２）発 生 量　　多

４　**情報の根拠**

（１）イチゴ子苗での炭疽病の潜在感染は，調査ほ場全てで確認された。これまで，雨よけ育苗では潜在感染を殆ど認めなかったが，８月の調査では感染が認められた。

（２）感染株率は30％で，平年15％（平成21～25年の平均値）と比較して高い。

（３）炭疽病菌は高温多湿条件で多量の胞子を形成し，雨水等で飛散，感染する。

（４）降雨が多い状況が続いている。

（５）苗床で病徴が認められる株は，急激な増加は見られていないが，発生には好適な環境となっている。

５　**防除上注意すべき事項**

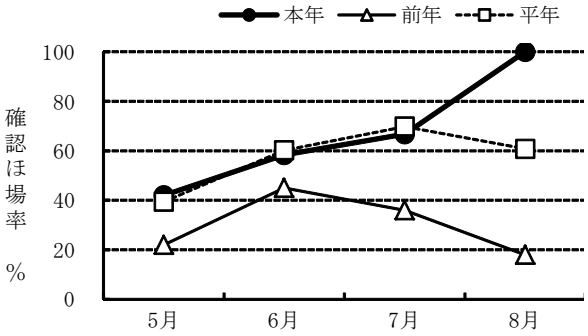
（１）古葉は潜在感染している場合が多いので，新葉展開後は摘葉する。

（２）発病株は感染源となるため，直ちに除去する。

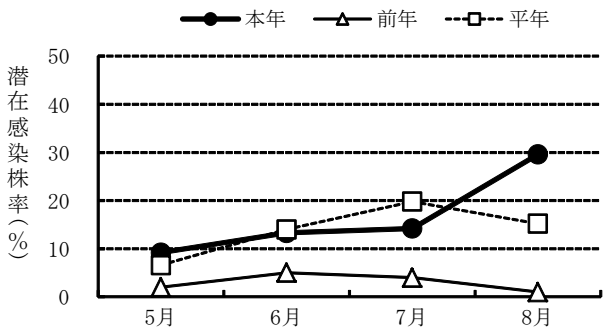
（３）薬剤散布は新葉の展開速度や効果持続期間に応じて散布間隔が長くならないよう７～10日間隔で予防散布を行う。

（４）摘葉作業は，降雨時は行わない。

（５）天候に合わせて，過灌水にならないように散水時間を調節する。



炭疽病潜在感染株の確認ほ場率（イチゴ）



炭疽病潜在感染株率（イチゴ）

調査地点：日置市伊集院町，さつま町湯田，志布志市有明町の各４ほ場（計12ほ場）

潜在感染調査：１ほ場20株の下葉を１葉採集し，28℃のインキュベータに２週間保管し調査

平年：平成21～25年の平均値